

各種アンケートの比較

平成23年1月

上士幌町

もくじ

1	比較の概要	1
2	平成 22 年実施の各種アンケートの比較	2
	（1）暮らしの満足度（平成 22 年住民・小学生・中学生・高校生）	2
	（2）上士幌町の将来像（平成 22 年小学生・中学生・高校生）	4
3	平成 22 年実施と平成 12 年実施の各種アンケートの比較	5
	（1）暮らしの満足度（平成 22 年住民、平成 12 年住民）	5
	（2）住みよさ（平成 22 年住民・中学生・高校生、平成 12 年住民・中学生・高校生）	7
	（3）定住意向（平成 22 年住民・小学生・中学生・高校生、平成 12 年住民・中学生・高校生）	8
	（4）町外に移りたい理由（平成 22 年住民、平成 12 年住民）	9
	（5）上士幌町の将来像（平成 22 年住民・ふるさと会、平成 12 年住民）	10
	（6）老後の不安（平成 22 年住民、平成 12 年住民）	11
	（7）高齢者福祉の重点（平成 22 年住民、平成 12 年住民）	12
	（8）将来の定住意向（平成 22 年ふるさと会、平成 12 年ふるさと会）	13

1 比較の概要

今回、実施した各種アンケート（平成 22 年に実施）、および第 4 期総合計画を策定する際に実施した 10 年前のアンケート（平成 12 年に実施）のうち、比較が可能な設問について、比較を行いました。

各アンケートの概要については、次のとおりです。

対象	平成 12 年に実施	平成 22 年に実施
住民	「町民アンケート」 ・町内全域に住む満 16 歳以上の男女（全世帯）を対象 ・回答者数 1,026 人	「まちづくり住民アンケート」 ・上士幌町民（全世帯）を対象 ・回答者数 412 人
小学生	※未実施	「まちづくり小学生アンケート」 ・町内の小学校に通っている 6 年生 ・回答者数 40 人
中学生	「中学生アンケート」 ・町内の中学校に通っている生徒 ・回答者数 219 人	「まちづくり中学生アンケート」 ・町内の中学校に通っている生徒 ・回答者数 120 人
高校生	「高校生アンケート」 ・上士幌町の高等学校（町内在住者）および道内の高等学校に在籍する高校生（上士幌中学校卒業生） ・回答者数 103 人	「まちづくり高校生アンケート」 ・町内の高等学校に通っている生徒 ・回答者数 111 人
ふるさと会	「郷土上士幌会会員まちづくりアンケート」 ・上士幌町ふるさと会に所属している会員（帯広会、釧路会、札幌会、東京会） ・回答者数 238 人	「ふるさと会まちづくりアンケート」 ・上士幌町ふるさと会に所属している会員（帯広会、札幌会、東京会）および町ホームページに設置したアンケートに、インターネット経由で回答を頂いた方（町外に住んでいる方） ・回答者数 188 人

集計・表記方法

- ・比較や順位付けは、回答数ではなく、回答率で行っています。そのため、「多い・少ない」ではなく「高い・低い」の言葉を用いています。
- ・集計結果は、小数点第 2 位を四捨五入し、小数点第 1 位までを百分率(%)で表示しています。そのため、選択肢から 1 つだけ選択する設問では、すべての選択肢を合計しても 100.0%にならないことがあります。
- ・本文やグラフ中の選択肢は、調査票の言葉が長いため、短縮しているものがあります。
- ・選択肢の表記が異なっている場合は、() や < > で併記しています。
- ・選択肢が全く同じではない設問についても、一部比較を行っています。その場合、異なる点を※で示しています。

調査の実施機関

企画・編集：上士幌町役場 企画財政課

集計・分析：株式会社 日本コンサルタントグループ

2 平成 22 年実施の各種アンケートの比較

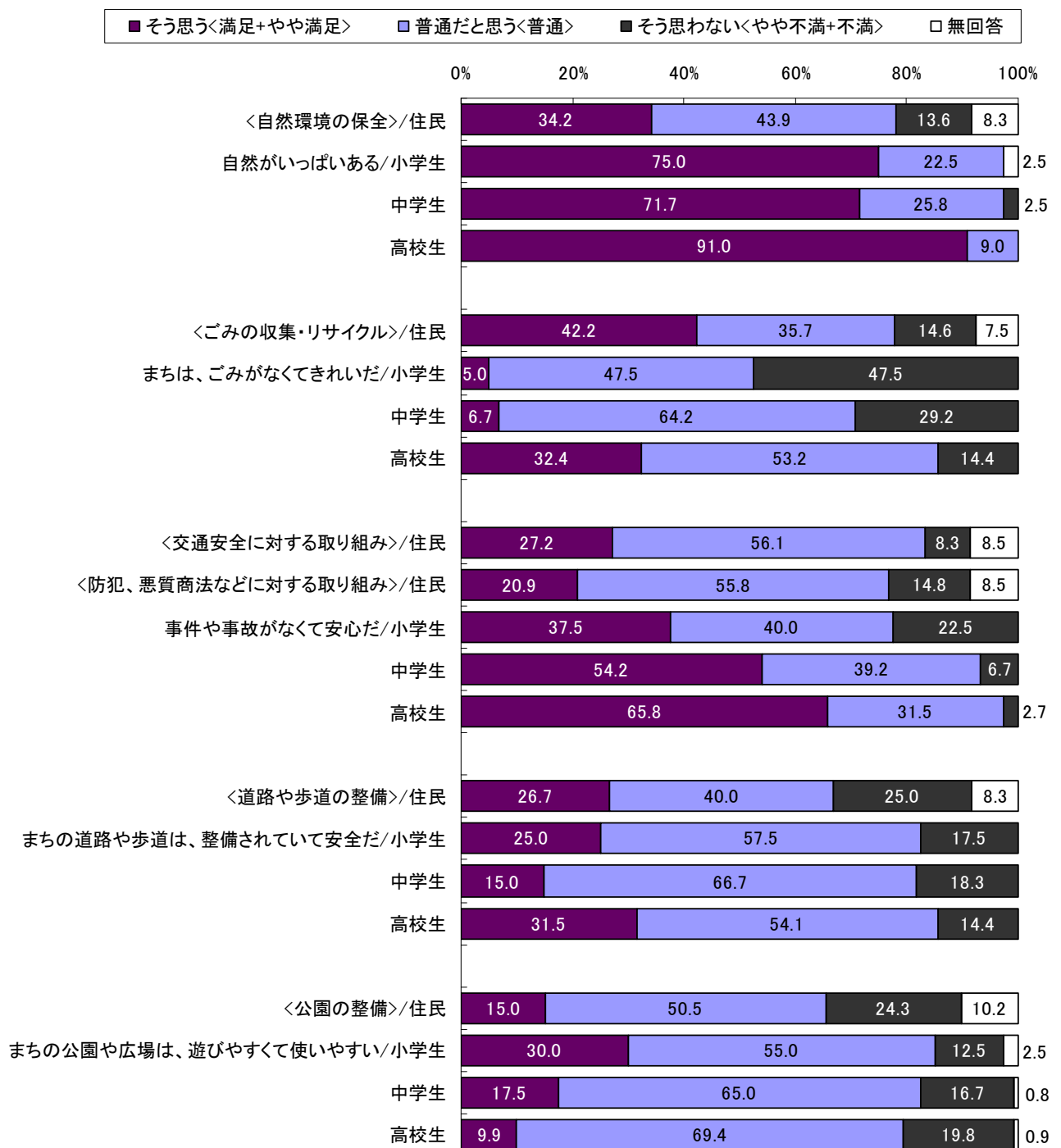
(1) 暮らしの満足度（平成 22 年住民・小学生・中学生・高校生）

小学生、中学生、高校生で比較すると、交通安全や防犯（事件や事故がないこと）については、年齢が高まるにつれて肯定的で、公園や広場、医療環境、商業については、年齢が低いほど肯定的です。

住民と小学生、中学生、高校生を比較すると、自然環境の保全（自然がいっぱいあること）については小学生、中学生、高校生の方が住民より肯定的です。

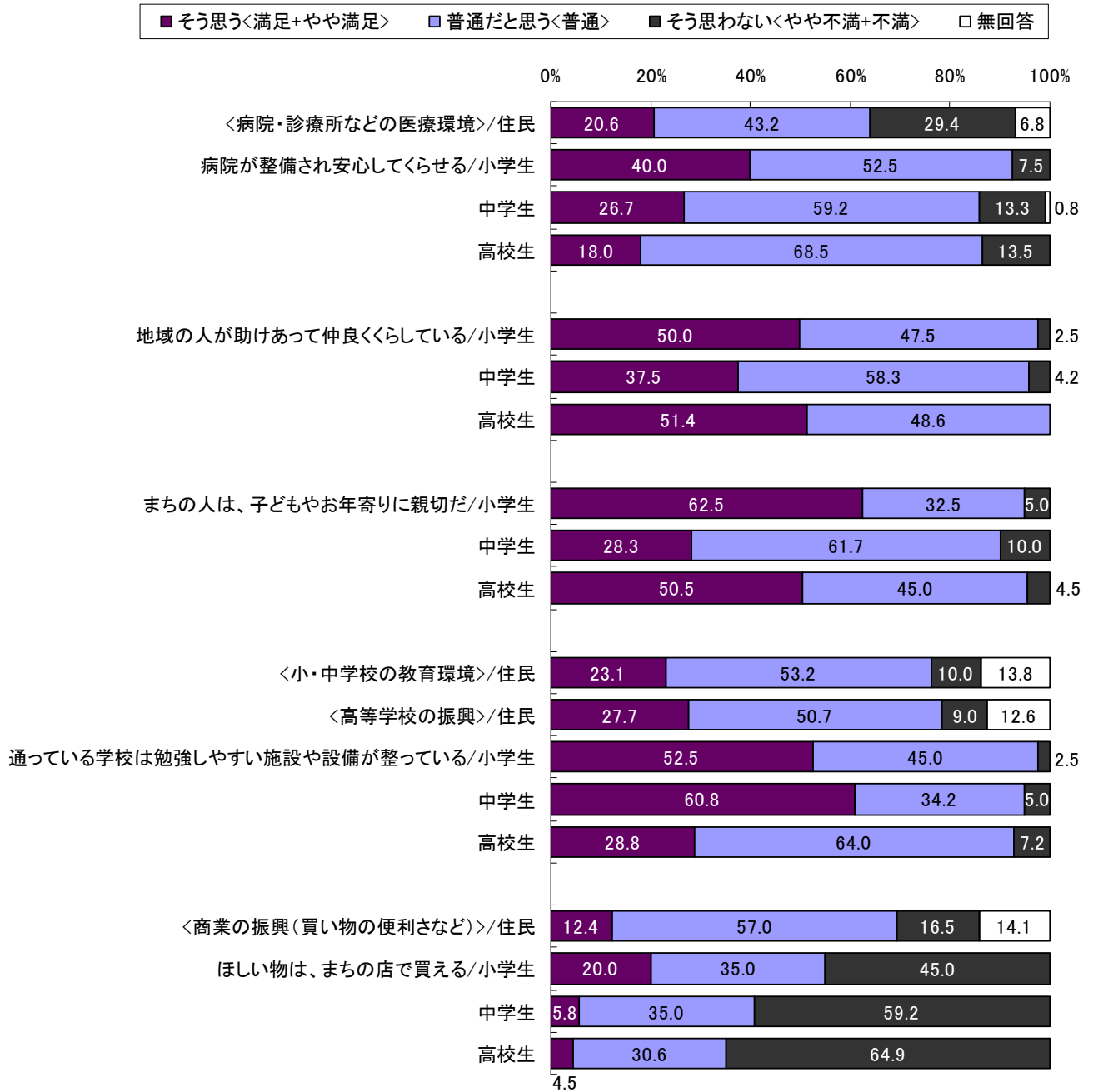
暮らしの満足度[1]（平成22年住民・小学生・中学生・高校生の比較）

※〈 〉は住民の表記



暮らしの満足度[2](平成22年住民・小学生・中学生・高校生の比較)

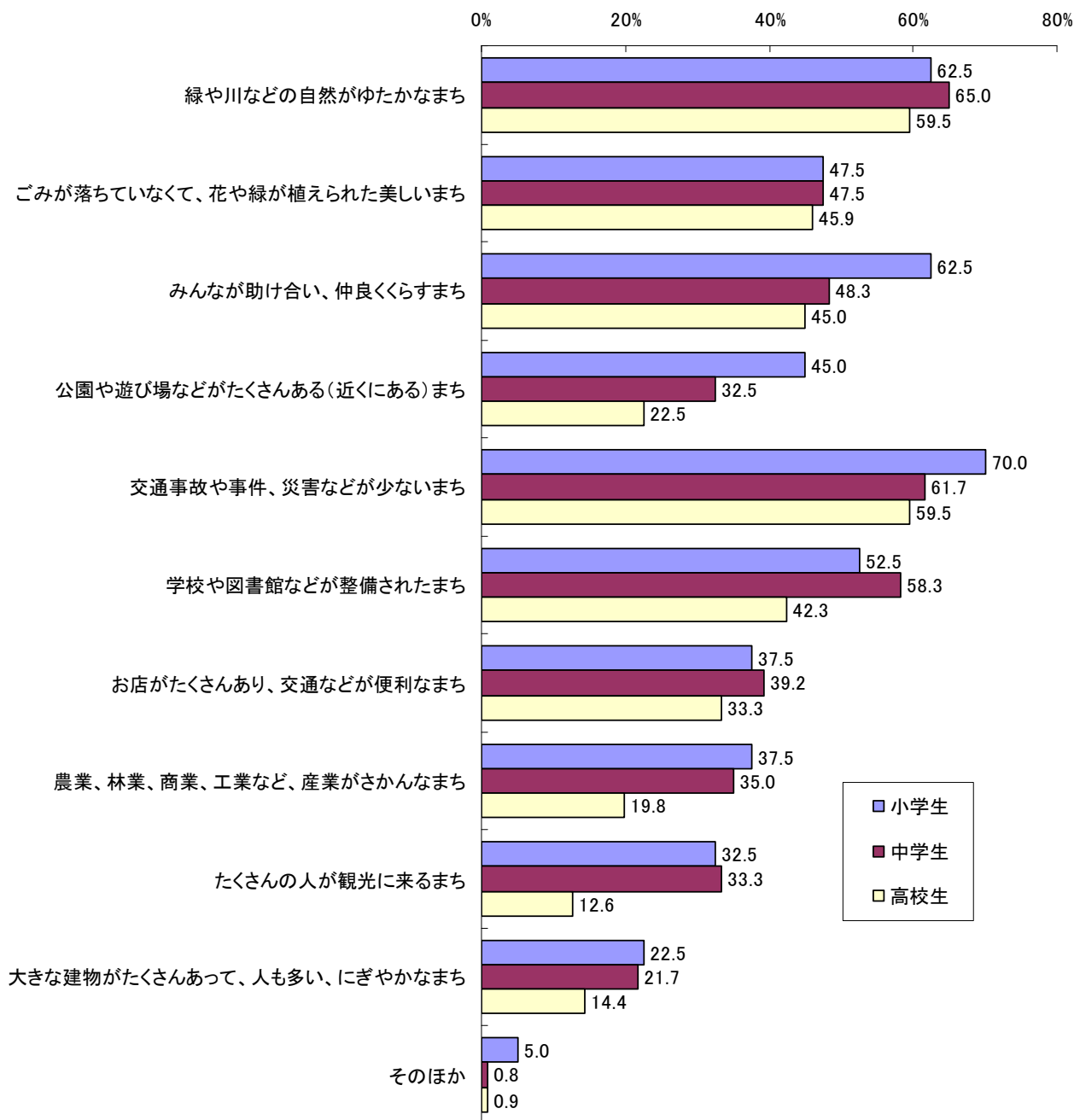
※<>は住民の表記



(2) 上士幌町の将来像 (平成 22 年小学生・中学生・高校生)

小学生は「交通事故や事件、災害などが少ないまち」、中学生は「緑や川などの自然がゆたかなまち」、高校生は「緑や川などの自然がゆたかなまち」と「交通事故や事件、災害などが少ないまち」の2つを同率で、それぞれ第1位にあげています。

上士幌町の将来像 (平成22年小学生・中学生・高校生の比較/あてはまるものすべて選択)



3 平成 22 年実施と平成 12 年実施の各種アンケートの比較

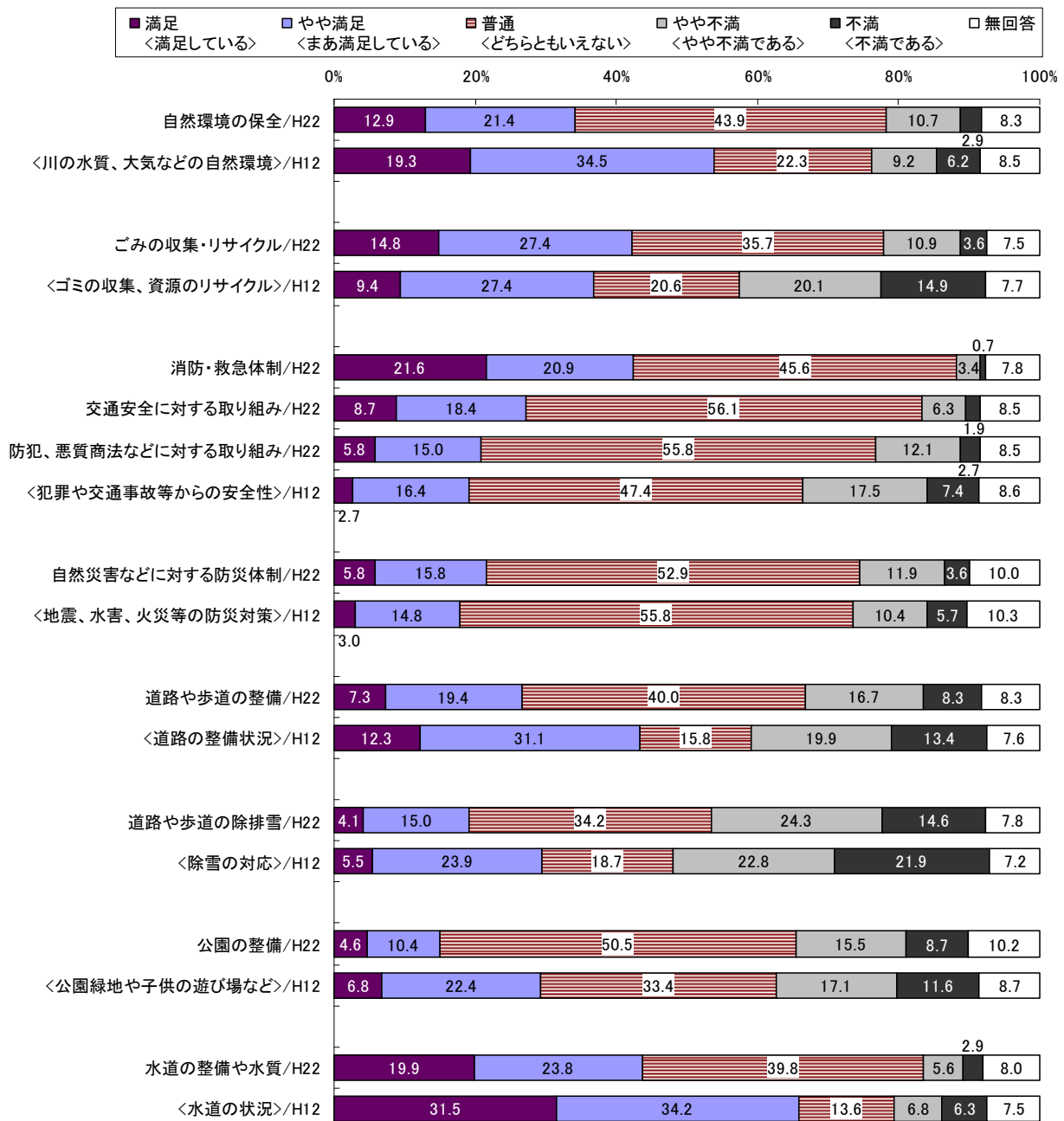
(1) 暮らしの満足度（平成 22 年住民、平成 12 年住民）

「満足<満足している>」と「やや満足<まあ満足している>」の回答率の合計で比較すると、平成 12 年住民の方が高い項目もかなりありますが、それに「普通<どちらともいえない>」の回答も合わせて比較すると、「働く場の確保<就職や働く環境>」以外は平成 22 年住民の方が高くなっています。

これは、全体的に平成 12 年住民より「普通<どちらともいえない>」の回答率が高くなっていることが要因ですが、あわせて、全体的に「不満」が平成 12 年住民に比べて減っていることも要因となっています。

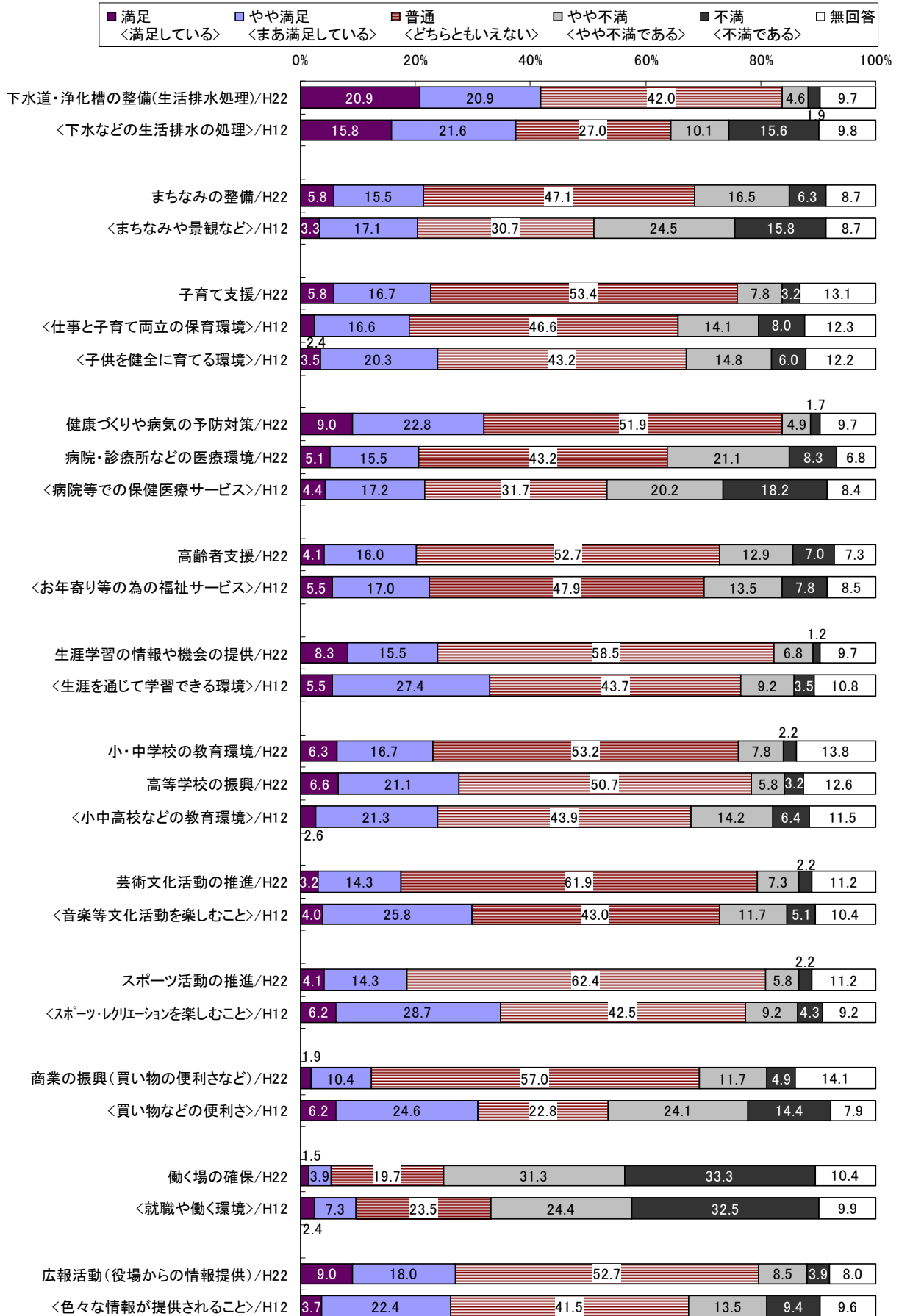
※<>は平成 12 年住民の表記

暮らしの満足度[1](平成22年住民、平成12年住民の比較)



※< >は平成12年住民の表記

暮らしの満足度[2](平成22年住民、平成12年住民の比較)

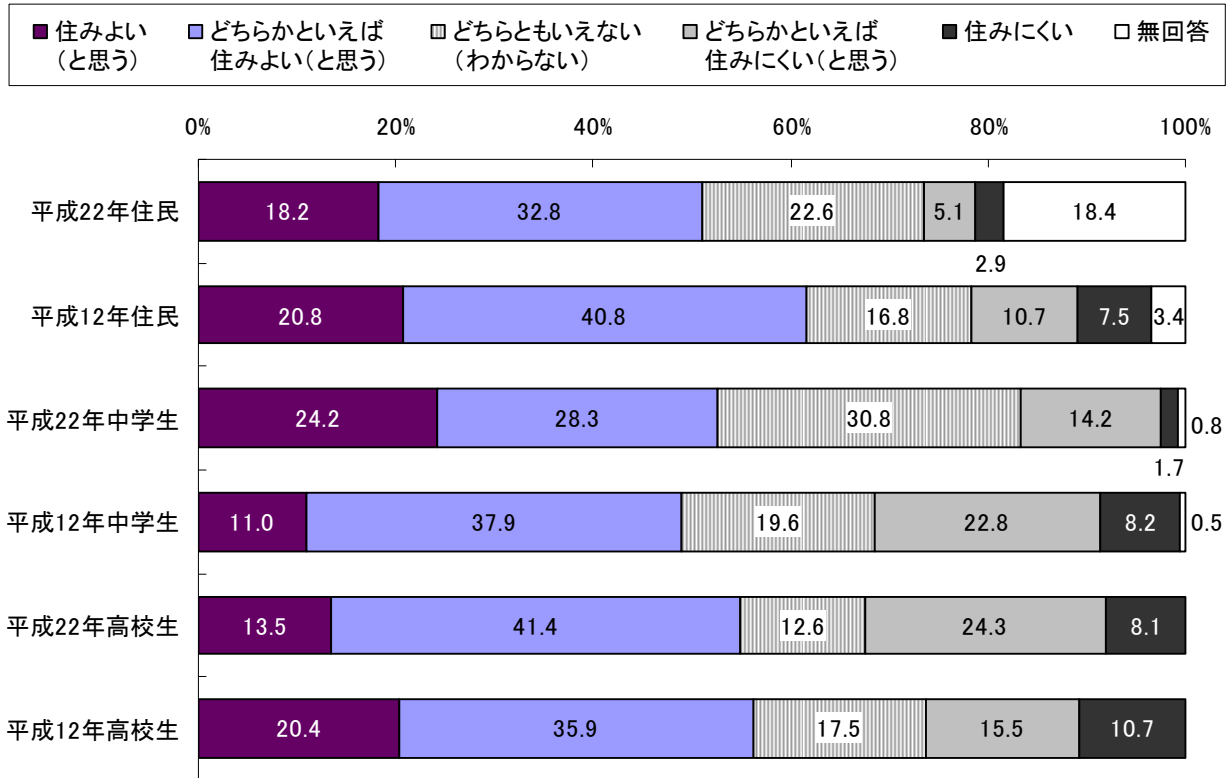


(2) 住みよさ (平成 22 年住民・中学生・高校生、平成 12 年住民・中学生・高校生)

平成 22 年中学生は、この中で「住みよい」が最も高くなっていますが、「どちらともいえない」も最も高くなっています。

住民と高校生は、それぞれ平成 12 年の方が、平成 22 年に比べて「住みよい」が高くなっています。

住みよさ
(平成22年住民・中学生・高校生、平成12年住民・中学生・高校生の比較)



※平成 22 年中学生・高校生、平成 12 年中学生・高校生の選択肢は「住みよいと思う」「どちらかといえば住みよいと思う」「わからない」「どちらかといえば住みにくいと思う」「住みにくい」

(3) 定住意向 (平成 22 年住民・小学生・中学生・高校生、平成 12 年住民・中学生・高校生)

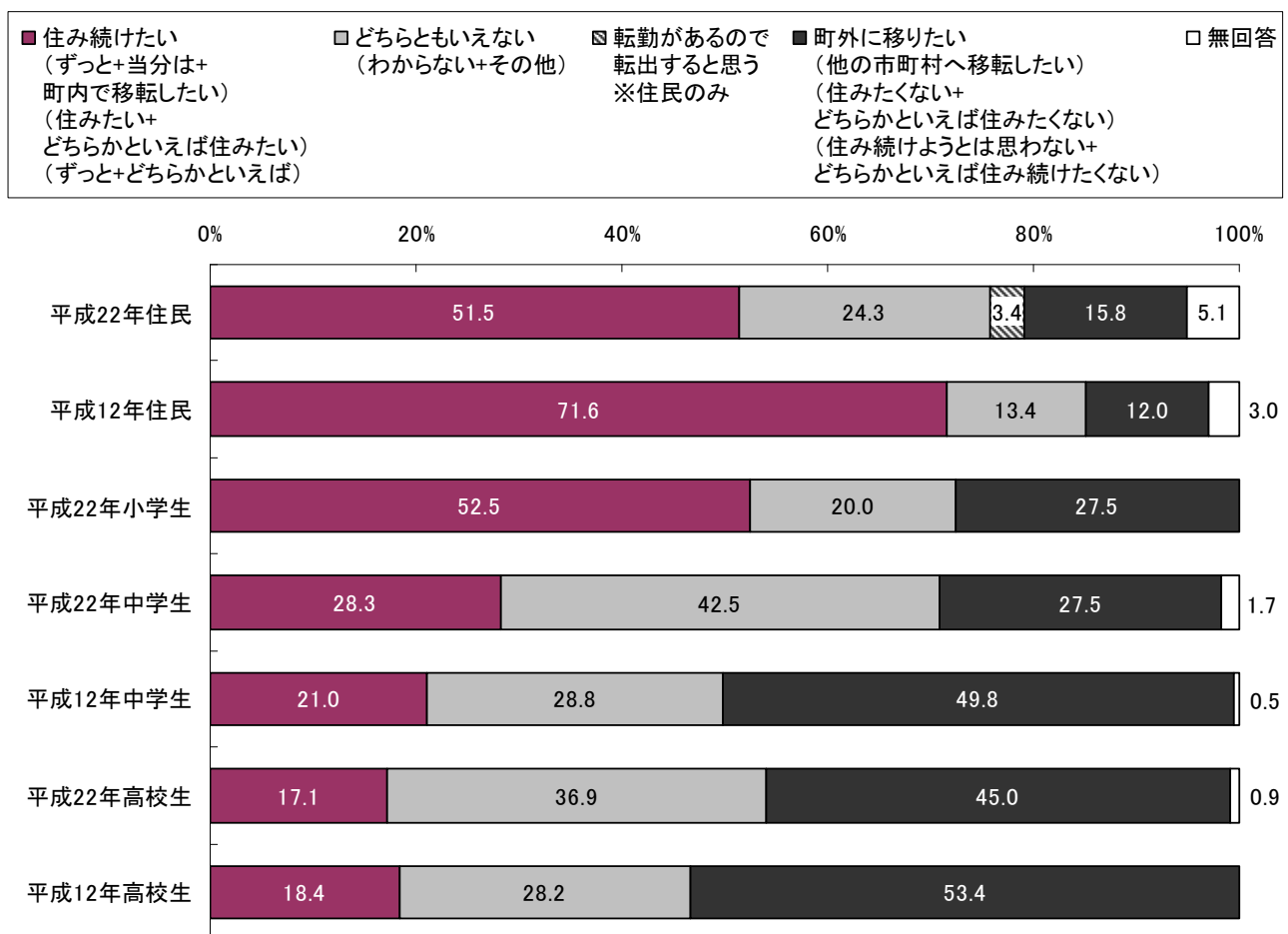
「住み続けたい」が最も高いのは平成 12 年住民で、その後、平成 22 年小学生、平成 22 年住民と続きます。この 3 つは「住み続けたい」が過半数を占めます。

一方、「町外に移りたい」が最も高いのは平成 12 年高校生で、平成 12 年中学生、平成 22 年高校生と続きます。この 3 つは「町外に移りたい」が 45%以上を占めます。

住民は、平成 12 年の方が平成 22 年より「住み続けたい」が高くなっていますが、中学生は、平成 22 年の方が平成 12 年より「住み続けたい」が高くなっています。

高校生は、平成 22 年と平成 12 年で「住み続けたい」に大きな差はありません。

定住意向
(平成22年住民・小学生・中学生・高校生、平成12年住民・中学生・高校生の比較)



※平成 12 年住民の選択肢は「ずっと住み続けたい」「当分は住み続けたい」「町内で移転したい」「他の市町村へ移転したい」「どちらともいえない」

※平成 22 年小学生の選択肢は「住みたい」「どちらかといえば住みたい」「どちらともいえない」「どちらかといえば住みたくない」「住みたくない」

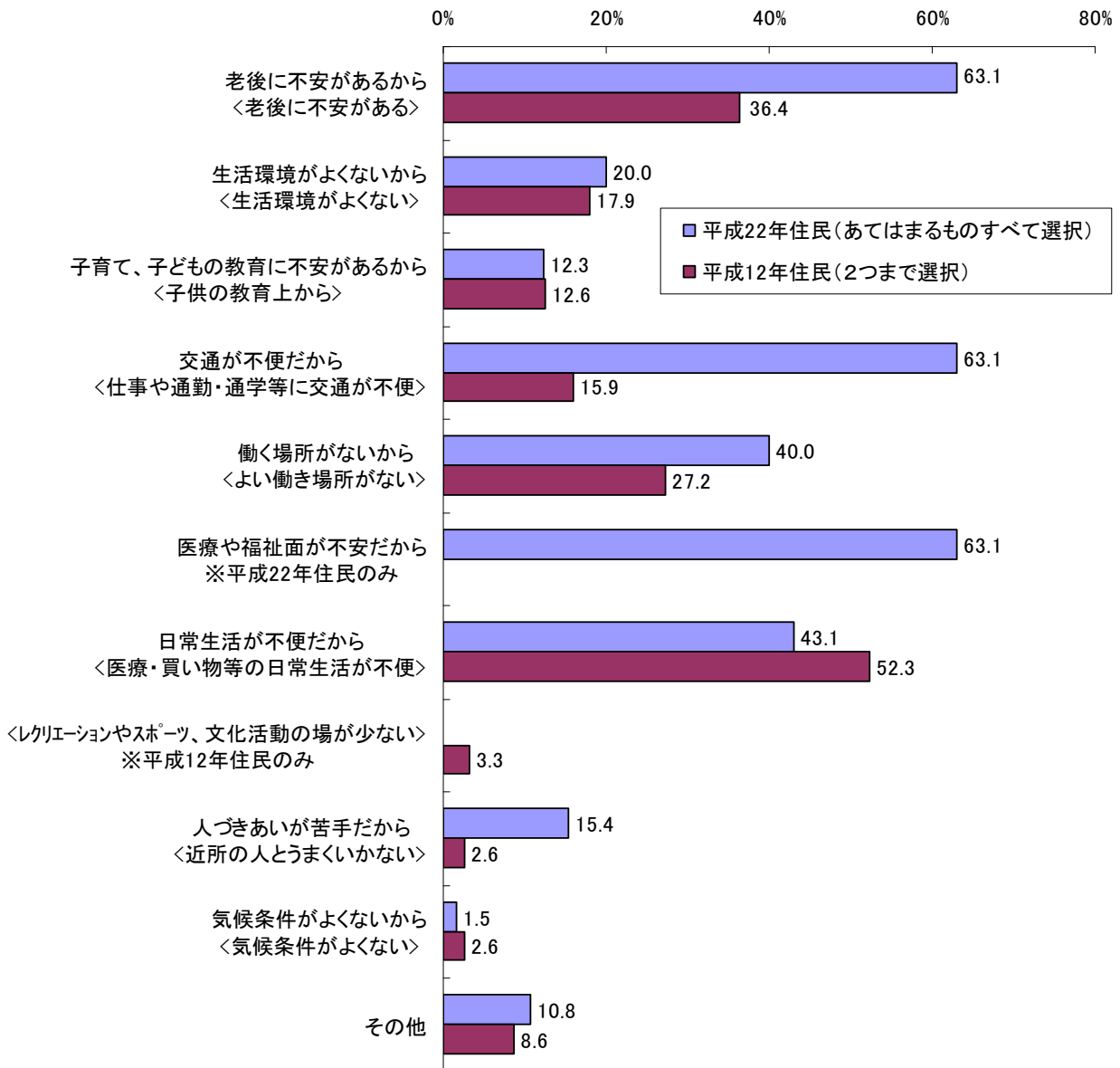
※平成 22 年中学生・高校生、平成 12 年中学生・高校生の選択肢は「ずっと住み続けたい」「どちらかといえば住み続けたい」「どちらかといえば住み続けたくない」「住み続けようとは思わない」「その他」「わからない」

(4) 町外に移りたい理由（平成 22 年住民、平成 12 年住民）

選択の制限や選択肢の内容が異なる点もありますが、平成 22 年住民は平成 12 年住民に比べて、老後の不安や交通の不便さに関する回答率が特に高くなっています。

※〈 〉は平成 12 年住民の表記

町外に移りたい理由(平成22年住民、平成12年住民の比較)

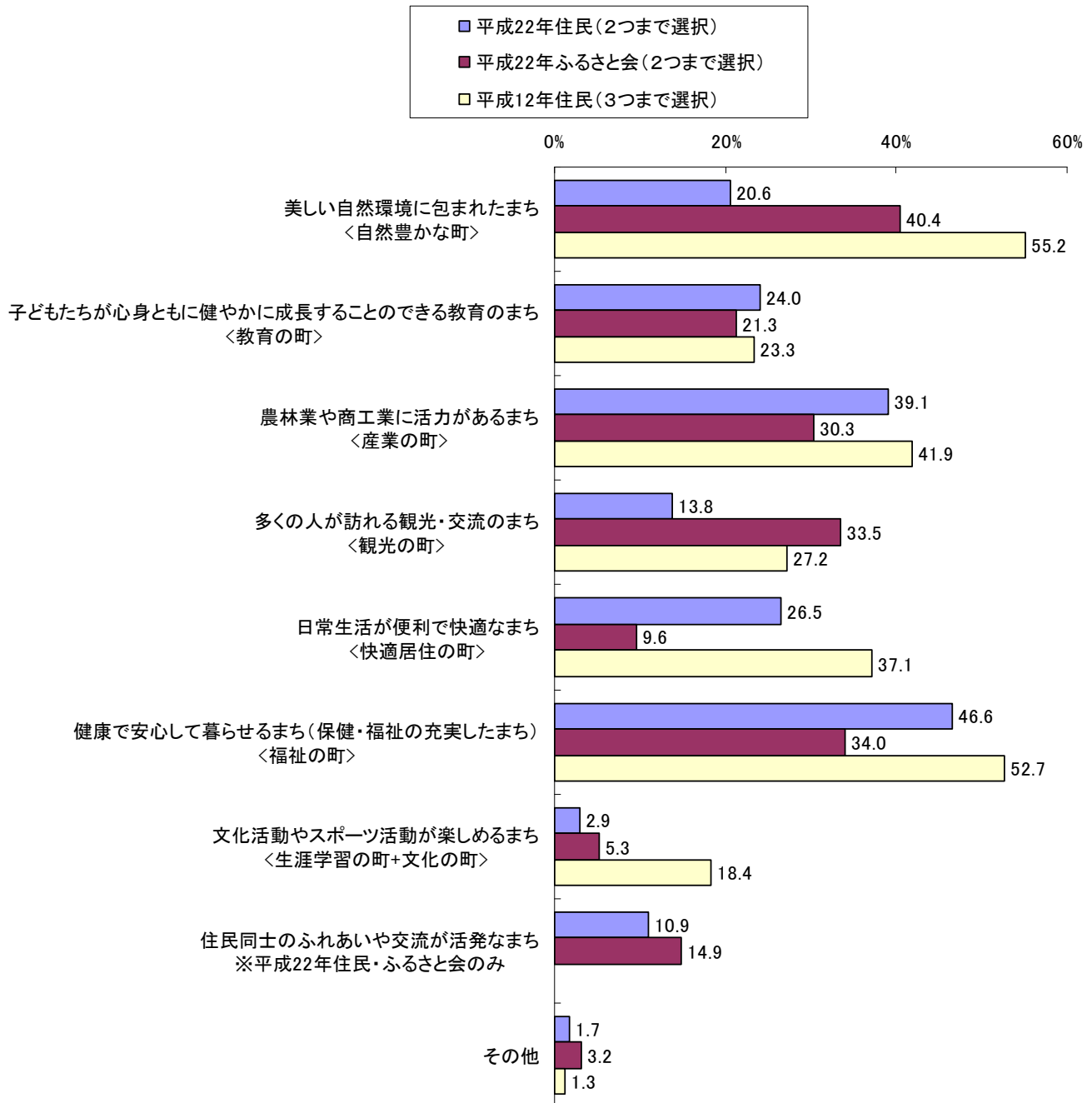


(5) 上士幌町の将来像（平成 22 年住民・ふるさと会、平成 12 年住民）

平成 22 年住民は「健康で安心して暮らせるまち<福祉の町>」、平成 22 年ふるさと会と平成 12 年住民は「美しい自然環境に包まれたまち<自然豊かな町>」を、それぞれ第 1 位にあげています。

※< >は平成 12 年住民の表記

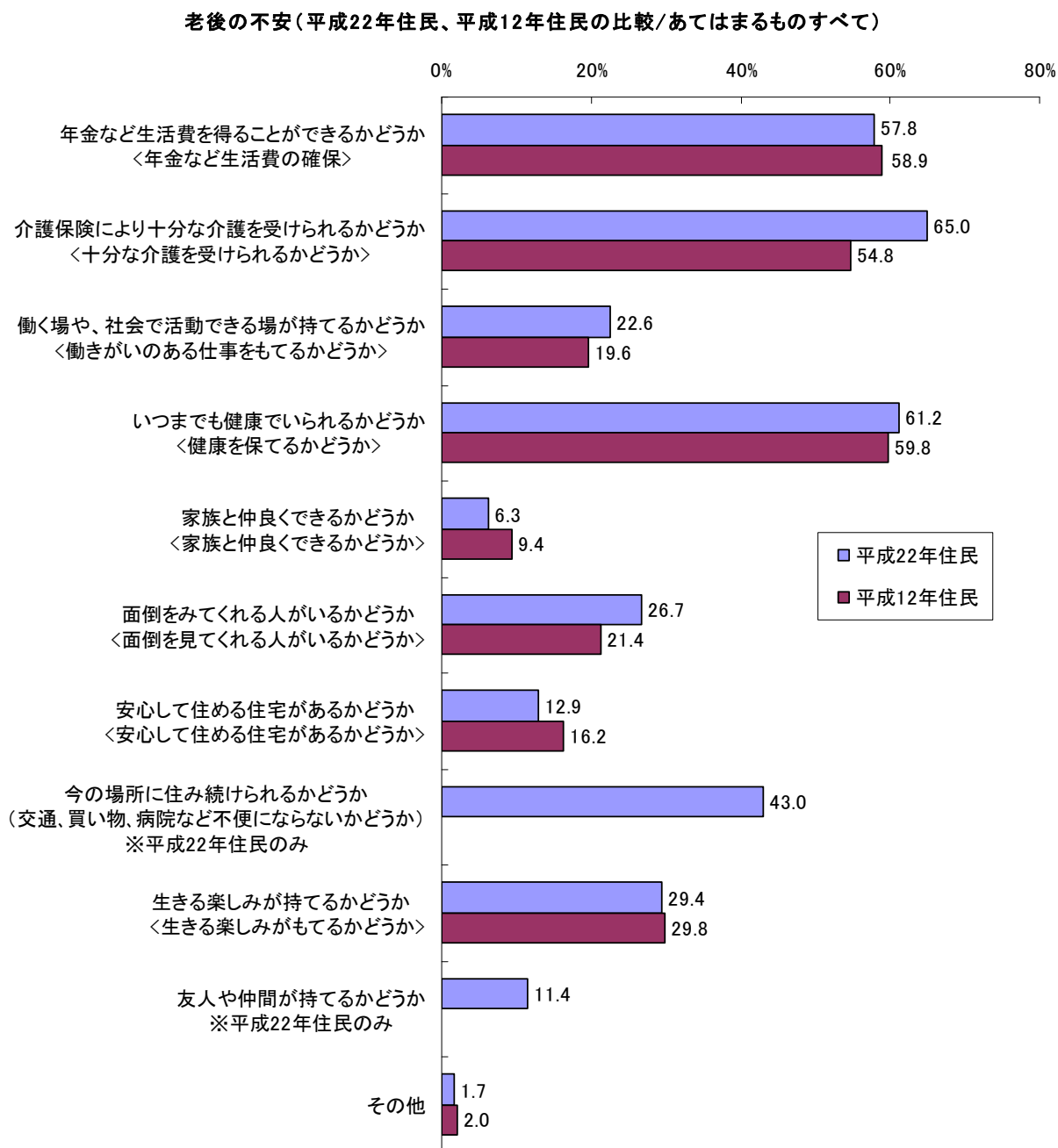
上士幌町の将来像（平成22年住民・ふるさと会、平成12年住民の比較）



(6) 老後の不安（平成 22 年住民、平成 12 年住民）

平成 22 年住民、平成 12 年住民ともに、年金など生活費、介護、健康が上位 3 項目です。
 上位 3 項目の中で、介護への不安は平成 22 年住民の方が平成 12 年住民に比べて高くな
 っており、差がめだちます。

※〈 〉は平成 12 年住民の表記

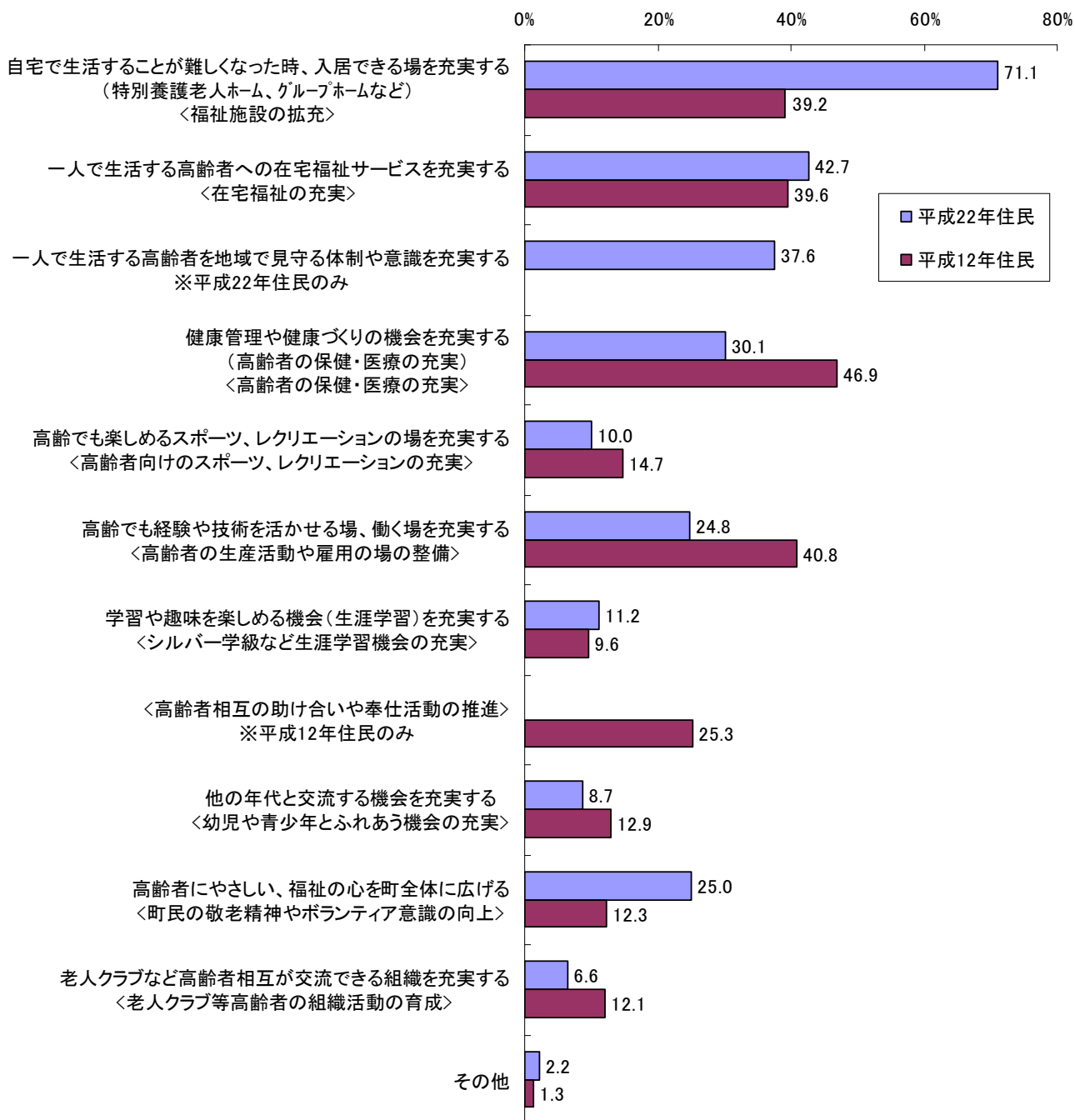


(7) 高齢者福祉の重点 (平成 22 年住民、平成 12 年住民)

平成 22 年住民は入居できる場 (福祉施設)、平成 12 年住民は保健・医療の充実を、それぞれ第 1 位にあげています。平成 22 年住民は特に、入居できる場 (福祉施設) の回答率が平成 12 年住民と比較すると高くなっています。

※〈 〉は平成 12 年住民の表記

高齢者福祉の重点 (平成22年住民、平成12年住民の比較/3つまで選択)



(8) 将来の定住意向（平成22年ふるさと会、平成12年ふるさと会）

大きな差はありませんが、平成22年ふるさと会は平成12年ふるさと会よりも「是非帰りたいと考えている」「できれば帰りたいと考えている」の回答率が、ともに高くなっています。

将来の定住意向（平成22年ふるさと会、平成12年ふるさと会の比較）

